

那覇空港構想段階に対する環境省意見

環 境 省

那覇空港の構想段階では、国土交通省が策定した「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン」等の趣旨を踏まえ、P I 手法を取り入れつつ検討が進められており、これは、環境省が取りまとめた「戦略的環境アセスメント導入ガイドライン」に基づく戦略的環境アセスメント(SEA)を含むものとして行われている。

以下は、これらのガイドラインを踏まえ、国における環境保全に関する行政の総合的な推進を担う立場から、那覇空港構想段階に対して環境の保全の見地から意見を述べるものである。

那覇空港については、構想段階に先立つ総合的な調査段階から、複数の滑走路増設案について「周辺環境への影響」の視点を含めた比較検討を行い、透明性の高い手続きの下で3案選定されている。これに続く、構想段階では、さらに詳細な調査が実施され、環境に対する影響についても構想段階としては相当具体的な調査・予測・検討が行われていると評価される。

その結果、最終的に作成された、増設A案と増設B案について、サンゴ、藻場、干潟などの自然環境の消失や潮流の変化、空港周辺地域における航空機騒音の改善等の環境影響を十分具体的に把握、比較検討されていると評価される。

本事業は、自然海岸の埋立てを伴うものであり生態系に及ぼす影響は大きいこと、また、一方で航空機騒音の改善に寄与することが出来ると考えられることから、概ねの位置・規模を増設A案、増設B案から選定する際には、既に具体的に、把握、比較検討されている環境影響のうち、特に以下の観点に留意することが重要である。

- ・ 那覇空港周辺は、近年、全国的にも減少傾向にあるサンゴ、藻場、干潟などの自然環境が残されており、環境省と沖縄県作成のレッドリストにおいて絶滅危惧種に選定された種が多く記録されている重要な地域であること。
- ・ 空港周辺の海岸は、この地域では貴重な自然海岸となっており、特に増設A案ではサンゴや藻場が、増設B案では砂質干潟生態系がより大きな影響を受けること。しかし

ながら、これらの自然環境については、那覇空港前面海域のみならず、沖縄本島南部西海岸域を概観した中での位置付けも重要であること。

- ・増設される滑走路の内側の海域については、閉鎖性が増すことによる水質の悪化等の影響が懸念されること。
- ・航空機騒音については、住居地域からより遠方である増設A案は、より騒音影響が小さいと考えられること。

今後、事業が実施されることとなった場合には、構想段階において計画の必要性と位置・規模に関わる環境配慮事項についての十分な意見聴取が終了していることを踏まえることが重要と認識しつつ、構想段階において既に具体的に、把握、検討されている環境配慮事項のうち、特に以下の点についても留意されることが望ましい。

- ・サンゴ、藻場、干潟等の重要な生態系とそこに生息する希少な動植物への影響については、埋立に伴う影響をできるだけ最小にすることに加えて、海流の変化等による底質や水質の変化についても十分考慮すること。
- ・増設A案については、新滑走路への連絡誘導路に通水性を持たせる計画について、閉鎖性が増すことによる影響をできるだけ最小にできるように、具体の構造、工法等について十分検討すること。
- ・増設B案については、特に砂質干潟への影響をできるだけ最小にするための方策について十分検討すること。
- ・航空機騒音については、滑走路の増設による需要の増加に伴う航空機騒音の影響ができるだけ軽減されるよう十分検討すること。

最後に、那覇空港の構想段階は、冒頭に述べたように、国土交通省の「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン」の趣旨を踏まえ、環境省の「戦略的環境アセスメント導入ガイドライン」に基づくSEAを含む最初で先進的な手続きであることから必要と考え、意見を述べたものであり、今後もこのような取り組みが行われることを期待するものである。

以 上